

シャイニングを勧められてから、入級に踏み切るまで4～5ヶ月

「シャイニング（適応指導教室）に入級させたいのですが・・・。」学習の遅れを心配して来室された中3生徒の親御さん。表面的には一向に登校する気配の見えない息子。学校のストレスから解き放たれ、どっぷりと不登校の生活に浸かり、心地よさすら享受してしまった彼にとって、学校復帰の意義は何ら見出せないかもしれません。適応指導教室に通級することなど、煩わしさ以外の何ものでもないでしょうから。

昨年度の通級生（中3生徒）のアンケート（平成27年2月調査）では、母親や学校の先生から入級を勧められてから、実際に入級するまで1週間くらいで決めたという生徒から、4～5ヶ月と長くかかった生徒まで様々です。踏み切るのに時間がかかった理由は、「そこにどんな人たちがいるのかという心配（コミュニケーションをとれるか）」や「どんな勉強をするのかという心配（学習についていけるか）」を挙げています。彼らにとって適応指導教室が確実に自分の居場所になり得るかどうかは大きな問題ですので、決断は慎重に成らざるを得ません。最終的に入級を決意した理由は、「皆に勉強で遅れをとらないようにしたかった」「秋になり、そろそろ勉強しないとまずいと思った」「高校入試を考えて」等、進路（高校受検）が入級のきっかけになっています。

「4月から行くなって約束したでしょう」「高校に入れなかったらどうするの」「あなたのためを思っているのよ」等、心にゆとりがないとつい口にしてしまいそうですが、親のイライラは不登校の壁を大きくします。逆に、不登校は生死に関わることでないため、いつかどうにかなると考えて時間だけが過ぎていく事例など、最適なタイミングを逃がしてしまうことも不幸です。解決には、何段階かのステップがあって家族の力だけでは難しいように思います。子どもに合った良い出会い（大人・仲間）が必要です。不登校解決のために適応指導教室がベストとは言いませんが、私たちは「居場所があること」だけでなく「次につながる力をつける場所」を目指し支援します。

不登校の真の課題は、学校に行くかどうか、出席扱いになるかどうかではなく、「社会で生きていくための力を身につけられたか」だと思います。学校に行き、必ずしも学級に入れなくても、生徒自身が多くの教職員や生徒とのかかわりや刺激を受けながら、学力をはじめとした知識や知恵、他人とかかわる力を身につけていけたらと考えます。何より社会で生きていくうえで必要なことを身につける大事な機会を失うことがないようにしていかなければと思います。

シャイニングクラス（適応指導教室） 「～もう1ヵ月、思いがけない日々～」

新緑がまぶしい季節を迎えました。新年度になりもう1ヵ月以上が過ぎました。少しずつ新年度らしい雰囲気になってきました。開設の心配がありましたが、2人入級し、順調に学習しています。芽吹きそして成長の時期、きっと、何とかしたい・しなければという思いからの行動と信じています。

この頃は朝の挨拶が明るく爽やかになり、日々の生活の出来事を多く聴くことができ、とても幸せな気分です。なんと弘前公園に花見に行ったことや連休中にキャンプに行ったことなど、家での様子を楽しそうに語ってくれています。

さらに大変喜ばしいことに、毎日学校へ行くようになりました。シャイニングクラスで学習してから、朝から学校へ行くのが当たり前になりました。次は別室から学級へのデビューです。嬉しいときはもちろん苦しいときでさえも学校に行っているいろいろな経験しながら、自分らしく振舞えるようになることを期待している今日この頃です。

まだ行動に移れていない仲間がシャイニングクラスか学校またはその他のどんな機関でもいいので自宅以外に自分の居場所見つけ、歩み出して欲しいと思っています。その一歩を待っています。



授業（数学）の様子 5/15（金）

「芽吹きの中自然にどっぷり！」 体験活動① 4/23 (木)・体験活動② 5/7 (木)

入級生2人を迎え、春を満喫する体験活動を試みました。

初回は4月23日、雪解け間もない陣ヶ峰での眺望に挑戦。朝から絶好の体験日和に総勢6名は少々興奮気味です。車道を避け山道をどんどん進む生徒の勢いに圧倒されはしましたが、途中ミズバショウや山桜、コブシ、ショウジョウバカマ等に目を、また鶯等には耳を奪われながら展望台に到着しました。眼下に広がる我が新庄盆地、最上を囲むように位置する残雪の山並み、そしてスカッとした青空。思いっきり深呼吸しながら五感を研ぎ澄まし、暫し眺望に酔い痴れたのでした。森林の中で一斉に目覚めた動植物のエネルギーや薫りを肌に取り込み、そして展望台で目にした景色を脳裏に刻み、一気に下りました。「山頂は気持ちよく景色が最高に良かった」、「草花を見ながら自然を感じながら、太陽の光を浴びれたのでいい思い出になった」と記された生徒の感想に尽きる活動でした。



陣峰市民の森散策 4/23 (木)



里いもの植え付け 5/14 (木)

2回目は5月7日、恒例になった最上公園での散策と俳句作りです。過ぎ行く春を惜しみ、俳句の世界に浸るにはもってこいの天気です。堀を過ぎのんびり足を進めながらも、生徒の表情はすでに句を読む体勢に入っています。指を折っては字数を確認したり、メモを取ったり。社殿の周囲をぐるっと回り広場に来ると、かど焼き行事で使用した資材撤去の最中でした。そんな辺りの忙しさの中にあっても彼らの頭の中は5・7・5?・・・。各自の作品を短冊に認めた後、「とても悩んだけれど、自分ではいい句が書けたと思う」、「俳句は微妙なできでしたが、楽しかった」という反省がありました。ちょっと自己肯定的な姿が見え、とてもうれしくなりました。

4・5月の活動 シャイニングクラス在籍2名

< シャイニングクラスの学習 >

- 月曜日 理科、国語
- 水曜日 社会、英語
- 金曜日 数学、体育
- 木曜日 体験活動 (月2回)



◆ 体験活動① 4月23日 (木) 陣峰市民の森散策

◆ 体験活動② 5月 7日 (木)

春の植物観察と俳句づくり

◆ 体験活動③ 5月14日 (木)

畑作業「作物の植え付け」 (さつまいも・里いも・枝豆・小豆等)

◇ 4月の学校訪問 【市内小中学校対象】

4月8日 (月)・13日 (月)・20日 (月)・27 (月)
の4日間で、5中学校を訪問させていただきました。

◇ SC連絡会 (4/23・明倫中スクールカウンセラー連絡会に参加)

◇ 「気楽に話し合う会」 4月17日 (金) の会には4名の方の参加をいただきました。

あ と が き

シャイニングでの学習を終え学校に向かうはずの通級生が、なぜか逆方向に歩いているので「どこかに行くの?」と声をかけると、「天気がいいので花見をしてから向かいます」と指導員のS先生。迎えに来た母親に何か話していましたが、通級生はとても嬉しそうでした。遠回りをして学校に向かうという3人の後姿を見送りながら、いい関わりができていることに明るい兆しを感じました。道すがら、2人は家族のこと、進路のこと、好きな芸能人のこと等、いろいろな話を先生に聴いてもらったことでしょう。きっと先生との関係を深めた時間になったに違いありません。多くの子どもたちが、そして先生方が道草をできるくらいの時間的なゆとりがあればという思いを持ちました。

教育相談連絡先

- ダイアルなんでも相談
TEL 23-7266
- 適応指導教室 (シャイニング)
TEL 22-2111
(内線 445、448)
林、小野、鈴木が担当です。